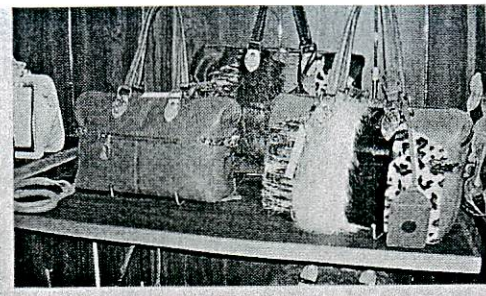
ベースで推移する。市さが続くとみている
ースに有力取引先との
欧州債務危機の影響も
年明けから輸出にブレ
が出始めた。今期に入
向けだけでなく、米
国などへの影響も出始
を維持する中東向け以
出が苦戦している。



素材使いの面白さだけでなく、セカンドバッグやショルダーバッグなど多様な使い回しも提案（マロード）

るが、第1四半期（4～6月）は国内が売り上げ4割増と急回復した。国内はレディスファッション服地のほか、ブラックフォーマル、和装なども好調だ。事業部全体の第1四半期は、輸出と国内の差し引きで売り上げは横ばいながら増益となり、ほぼ予算並みの到達となった。

第2四半期以降も国内販売の回復を見込んでいるが、国内の市場環境そのものは成長性や価

谷でバッグ製造30年の老
ハンドバッグやトート
ボストンバッグなどの
グで、トレンドを意識
売りとOEMの二つの事
っている。
高の半分を占めるOEM
アパレルメーカーなど
に素材やデザインをサン
提案。別注スタイルで1
口をミニマム単位にオ
を受けている。
拠点は広州や東莞、深圳
果省を中心とした中国を
に、インドネシアやバン

グラデシュなど。革や合皮、塩化ビニルなどの表地、裏地、金具などの素材は中国を中心に調達。企画・仕様に応じて生産地を振り分けて委託生産している。

「トレンド情報収集だけでなくファッション感度の高い当地区での企画・製造」（中塚社長）を基本に、生産地とのきめ細かい打ち合わせによって、顧客ニーズに即した商品を納入する。

バズマーケット（藤岡伸彦社長）は01年に個人営業として立ち上げ、その後、千駄ヶ谷に拠点を移した。ストールなどの服飾雑貨から始め、現在では毛皮小物、バッグ、ベルトなどのOEMを扱っている。

年間4回ほど、ショールームで展示会を開催。サンプル提案をもとに受注を広げてきた。生産拠点は中国。取り扱いアイテムは、中国の協力工場との関係作りを軌道に乗せながら増やしている。

ここにきて広州のバッグ工場との連携も進み、バッグも柱になってきたという。

アパレルメーカーなどのバイヤーが展示会などに寄りやすい地の利と中国の生産拠点をつなぎ、ファッション性やトレンドをくみ取った服飾雑貨や一部アパレル商品もOEM受注を受けている。

将来は「客先である日系アパレルの中国内販にも対応したい」と、展示会での企画・サンプル提案を軸に「情報を形に変える」OEM事業を行う。

最近強めている。事業部として国内量販アパレルや小売りへの営業を強化し、中国、タイ、マレーシアといった東レの海外テキスタイル拠点を紹介、相手先に応じたオリジナル素材や機能素材などを提案し、事業部の売り上げには計上しないが前期で11万㍍の実績につながった。現状はテキスタイル販売が中心だが、今後、グループの商社と連携した製品納入も広げる。

のグローバルシタークナー

秋から試験導入

大手セレクトショップとICタグ

ブランドネーム・表示物メーカーのナクシスは今秋、大手セレクトショップとRFID（ICタグ）を試験導入するのに先立ち、18日から始まるJFWインターナショナル・ファッション・フェア（JFW-IFF）で、この内容を展示、発表する。同社はこれまで、住金物産などからの支援を受けてICタグを開発し、見本販売を始めている。先行する1社との間で今秋から試験導入するため、JFW-IFFで展示紹介し、新たな市場との取り組みにつなげる。

ICタグはICチップの情報を瞬時に大量に読み取り、流通から小売り店頭までをつなぐことで、検品、入出荷、在庫管理などの時間を大幅に短縮できる。パッケージなどにも応用でき、偽物も防止できる。

電波法の改正でICタグが使いやすくなり、ICチップなどのコストも大幅に下がっているため、タグ・表示物メーカーは急速に開発を進め、今春からアパレルや小売りとの本格的な取り組みが進行している。

関西中心に53社参加

ジェトロが欧米向けテキスタイル輸出商談会

熱心に見て回るバイヤーが目立った

ジェトロ（日本貿易振興機構）は10、11日、欧米のアパレルブランド5社の生地担当バイヤーを招き、大阪でテキスタイル輸出商談会を開いた。関西の産地企業や商社など53社が参加した。12日には和歌山でも商談会を開いた。

商談会は09年から実施しており、大阪での開催は6回目。これまで延べ261社が参加し、今回、滋賀の麻紳商会、京都の大善、大阪の丸ホームテキスタイル、東京の小松和テキスタイル、栃木のワダノブテックスは初めての出展となった。

招いたのは、米国の「トリー・バーチ」「エイリーン・フィッシャー」、イタリアの「グッチ」、フランスの「イヴ・サンローラン」、英国の「オーラ・カイリー」の生地バイヤー。

オーラ・カイリーのロッティ・ウィリアムスさんは「軽量織物など日本の技術やテクノロジーは非常に興味深い。ニットやパイル素材のほか、和紙を使ったものを見に来た。欧州では天然素材に対する人気が高いので、そうした素材も見たい」と語った。価格については、「高いものから安いものまで幅広く揃っている」と一加工など一緒に取り組み、独自発した」と意欲を開催した。

石川の天池合繊は、女の羽衣」で、1平方当たり5㌘の超軽量タイプを提案した。ポリエステル100％で、従来の約半分の軽さ。同社の天池源受社長は「最近では欧州での知名度が向上しており、長く続けることが重要」と語った。皮革素材を扱う兵庫のオンリーワンは、「どういった薬品を使い、どういった工程で生産しているかについて詳細に尋ねられた」という。

12日には、和歌山でも地元企業12社を集めて商談会を開いた。エイガールズ、森下メリヤスや妙中パイル工業、青野パイル、岡田織物などが出展し、ジャージーやパイル織・編物などを紹介。産地の工場見学も実施した。

靴検査のX線装置強化

イメージテック

X線装置メーカーのイメージテック（静岡県浜松市、菅圭司社長）は、靴や小物を検査する装置の開発と販売に力を入れる。昨年4月に発売した2方向2画面撮像装置（566万円）は、1方向では見落としがちな異状を発見できるため、大手小売業や物流業での導入が広がった。靴を入れるコンベヤーの間口を従来より広い65㌢にした機種の売れ行きが良い。2方向2画面はX線撮像を異なる角度で行うことで死角を減らし、釘や異物を見つけ出す。10月に新タイプを発売予定だ。

1方向ながら業界で最安値398万円の靴・小物専用装置の販売も順調。導入後に2方向に変えられるように設計し、1方向を設置後でも、その場で改造し2方向にできる。全て国産で品質管理を徹底するほか、販売先の要望に応じてカスタマイズできるのが特徴だ。

の提携で新たな取り組みをスタート。また、売り先の一つとして東レにも販売するなど新しい客先に広げており、安定供給の基盤を固めつつ、自社が得意とするテキスタイル開発も強めていく。

●モリリン・ニットマテリアルグループ13年春夏展VOL.1
18～20日、東京・南青山のライト・ボックス・スタジオで開く。